

商品名 トリフリード輸液 添付文書情報

一般名	維持液（複合糖加）	薬価	370.00
規格	1L 1袋	区分	
製造メーカー	大塚製薬工場	販売メーカー	大塚製薬工場 大塚製薬
薬効	3. 代謝性医薬品 33. 血液・体液用薬 331. 血液代用剤 3319. その他の血液代用剤		

トリフリード輸液の組成・成分

1000mL中

<電解質>

塩化ナトリウム：1.460g

酢酸ナトリウム水和物：0.820g

塩化カルシウム水和物：0.370g

塩化マグネシウム：0.510g

リン酸二カリウム：1.740g

硫酸亜鉛水和物：1.400mg

<糖質>

ブドウ糖：60.00g

果糖：30.00g

キシリトール：15.00g

トリフリード輸液の用法・用量

通常成人には1回500～1000mLを点滴静注する。投与速度は、通常成人には糖質として1時間当たり0.5g/kg体重以下とする。
なお、年齢、症状、体重により適宜増減する。

トリフリード輸液の効能・効果

経口摂取不能又は不十分な場合の水分・電解質の補給・維持、エネルギー補給。

【効能又は効果に関連する注意】

本剤を投与する場合には、患者の尿量が1日500mL又は1時間当たり20mL以上あることが望ましい。

トリフリード輸液の副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

2. その他の副作用：

- 〔1〕 過敏症：（0.1～5%未満）発疹。
- 〔2〕 大量・急速投与：（頻度不明）脳浮腫、肺水腫、末梢浮腫、水中毒、高カリウム血症、血栓性静脈炎、肝障害、腎障害。
- 〔3〕 その他：（5%以上）血管痛。

トリフリード輸液の使用上の注意

【禁忌】

1. 遺伝性果糖不耐症の患者〔果糖が正常に代謝されず、低血糖、肝不全、腎不全等が誘発されるおそれがある〕。
2. 高カリウム血症、乏尿、アジソン病、重症熱傷、高窒素血症の患者〔高カリウム血症が悪化する又は誘発されるおそれがある〕。
3. 高リン血症、副甲状腺機能低下症の患者〔高リン血症が悪化する又は誘発されるおそれがある〕。
4. 高マグネシウム血症、甲状腺機能低下症の患者〔高マグネシウム血症が悪化する又は誘発されるおそれがある〕。
5. 高カルシウム血症の患者〔高カルシウム血症が悪化するおそれがある〕。
6. 重篤な肝障害、高度腎障害のある患者。

【合併症・既往歴等のある患者】

1. インスリンの投与のみでしか血糖管理ができない患者（インスリン依存性糖尿病患者）：ブドウ糖製剤を用いる方が望ましい。
2. 糖尿病の患者：血糖値が上昇することにより、症状が悪化するおそれがある。
3. 心不全の患者：循環血液量の増加により、症状が悪化するおそれがある。
4. 閉塞性尿路疾患により尿量が減少している患者：水分、電解質等の排泄が障害されているため、症状が悪化するおそれがある。

【腎機能障害患者】

- 1) 高度腎障害のある患者：投与しないこと（水分、電解質代謝異常を悪化させるおそれがあり、また、果糖、キシリトールの大量を急速投与すると、腎障害が悪化するおそれがある）。
- 2) 腎障害＜高度腎障害を除く＞のある患者：水分、電解質の過剰投与に陥りやすく、症状が悪化するおそれがあり、果糖、キシリトールの大量を急速投与すると、腎障害があらわれるおそれがある。

【肝機能障害患者】

- 1) 重篤な肝障害のある患者：投与しないこと（水分、電解質代謝異常を悪化させるおそれがあり、また、果糖、キシリトールの大量を急速投与すると、肝障害が悪化するおそれがある）。
- 2) 肝障害＜重篤な肝障害を除く＞のある患者：果糖、キシリトールの大量を急速投与すると、肝障害があらわれるおそれがある。

【妊婦】

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

【授乳婦】

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

【小児等】

小児等を対象とした有効性及び安全性を指標とした臨床試験は実施していない。

【高齢者】

投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること（一般に生理機能が低下している）。

【適用上の注意】

1. 全般的な注意：
 - 1) 使用時には、感染に対する配慮をすること。
 - 2) 注射針や輸液セットのびん針は、ゴム栓の刻印部（○印）に垂直にゆっくりと刺すこと（斜めに刺した場合、削り片の混入及び液漏れの原因となるおそれがある）、また、針は同一箇所を繰り返し刺さないこと。
2. 薬剤調製時の注意：薬剤を配合する場合には、配合変化に注意すること。
3. 薬剤投与時の注意：
 - 1) 原則として、連結管を用いたタンデム方式による投与は行わないこと（輸液セット内に空気が流入するおそれがある）。
 - 2) 容器の目盛りは目安として使用すること。
 - 3) 残液は使用しないこと。

【取扱い上の注意】

1. 液漏れの原因となるので、強い衝撃や鋭利なものとの接触等を避けること。
2. 次の場合には使用しないこと。・ 外袋内や容器表面に水滴や結晶が認められる場合には使用しないこと。・ 容器から薬液が漏れている場合には使用しないこと。・ 性状その他薬液に異状が認められる場合には使用しないこと。・ ゴム栓部のシールがはがれている場合には使用しないこと。

【保管上の注意】

室温保存。



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.